令和8年度 抵抗加熱技術部会技術交流・見学会「浜松ホトニクス中央研究所」見学記

1.日　　時：令和8年10月2日（金） 10:00～11:45
2.見学場所：浜松ホトニクス株式会社　中央研究所
3.説 明 者：豊田晴義 所長、山崎（秋草）文 グループ長
4.出 席 者：10名（事務局4名含む）
5.概　　要：

今年度は前日（1日）に浜松市福祉交流センター会議室で抵抗加熱技術部会を開催し、翌2日午前、静岡県浜松市にある浜松ホトニクス中央研究所見学会を実施した。同研究所はコロナ前の2018年にアーク・プラズマ加熱技術部会の見学会を開催しており、当センターとして約8年ぶりの訪問となった。当日は遠州鉄道遠州小松駅に集合し、タクシーに分乗して15分程で見学先に到着。大浜抵抗加熱技術部会長より開会のご挨拶いただき、見学会をスタートした。



写真 1　会議室で会社概要の説明

会議室に到着すると、はじめに同研究所の所長である執行役員の豊田晴義様よりご挨拶と会社及び研究所概要、同社の取り組み、主要製品などについて紹介いただいた。前回訪問時に研究主幹としてご案内いただいた豊田様が現在は所長となられ、再び当センターの見学会を受け入れていただけことには何か縁を感じた。

同社はNHKのテレビ本放送及び日本初の民放テレビ放送が始まった1953年に浜松テレビ株式会社として設立。現在は浜松市内に4つの事業部（電子管・光半導体・レーザ・画像計測機器）と研究所を有し、高柳健次郎博士の言葉「女神の前髪をつかむ」を企業理念に光の可能性を追求し続けている。

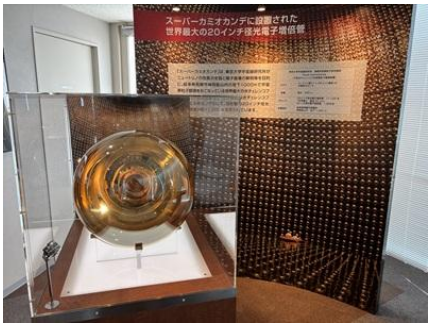


写真 2　20 インチ光電子増倍管

座学のあとは屋上階のフロアに移動し、「スーパーカミオカンデに設置された世界最大の20インチ光電子増倍管」の説明を受ける。光電子増倍管で圧倒的なシェアを誇る同社の技術を目の当たりにし、参加者からは多くの質問が寄せられた。

その後4階に移動して「植物計測技術」、「フレキシブル有機フォトダイオード」、「生体イメージング技術」の説明。「植物計測技術」では「植物の肥料成分の過不足を光で判断し、問題症状が出る前に対策をすることで、全体の収穫量を増加させる」など、「スマート農業」の進展にも同社が寄与していることを実感した。また、「生体イメージング技術」は生きたサンプルを無傷（intact）の状態でイメージングする方法を追求しており、医療技術の発展を期待させるものであった。最後に2階へ移動して「PET技術」、「空間光変調器（SLM）による高度光波面制御技術」の説明。その後再び会議室に戻り、質疑にご対応いただき見学会を終了した。光技術の可能性を追い続ける同社の先進的な取り組みに参加者一同感銘を受け、大満足の様子で見学先をあとにした。



写真 3　興味津々の見学風景



写真 4　集合写真